さいたま市立大宮南小学校　　令和８年６月 30 日　No.4

大宮南小だより

ＴＥＬ　６４１－０３３９
ＦＡＸ　６４１－０３６６
http://omiyaminami-e@saitama-city.ed.jp

エッシャーの作品と、松下幸之助の言葉から

校　長　　永　山　　誉

明日から７月。令和８年度１学期もいよいよ残り１か月を切りました。令和８年度に入ってからのお子様の成長ぶりはいかがでしょうか。７月１８日からは、３９日間の長い夏休みに入ります。１学期の残りの１か月、子どもたちには、これまでの取組を振り返りながら、成長した点とこれからの課題を整理して、夏休みを迎えられるようにしていきたいと思います。引き続き、保護者の皆様には、学校教育への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

さて、６月２４日の講話朝会では、オランダの版画家であるマウリッツ・コルネリス・エッシャー氏（1898～1972）〈以下、エッシャー〉の作品を提示し、「勉強するとき大切なこと」をテーマに、子どもたちにお話をしました。エッシャーの作品については、どこかで作品を御覧になった方も多いかと思います。コンピュータのない時代に、エッシャーが生み出した作品は、現在でも、数学者や建築家など、幅広い分野の方々に影響を与えています。この作品を通し、子どもたちには、**「不思議だなあ」「どうしてだろう」「きれいだなあ」「おもしろいなあ」**という思いが、**「どうなっているのだろう」「どんな仕組みになっているのだろう」「他にもできるかな」**という問いを生み、そのことが勉強の出発点となるというお話をしました。先生にやりなさいと言われたからやるのではなく、自分から不思議に思ったことや疑問に思ったことを、自分の力で解決していけるようになってほしいと投げかけました。講話朝会の後、校長室にエッシャーの本を閲覧に来る子どもたちと会話しながら、何事にも主体的に関わって欲しいなあと感じました。

このような内容に関連して、私の好きな言葉として、パナソニック（旧松下電器産業）グループの創業者であり、PHP研究所創設者の松下幸之助氏（1894～1989）の言葉を紹介します。

な　ぜ

こどもの心は素直である。だからわからぬことがあればすぐに問う。「なぜ、なぜ」と。

こどもは、一生懸命である。熱心である。だから与えられた答を、自分でも懸命に考える。考えて納得がゆかなければ、どこまでも問いかえす。「なぜ、なぜ」と。

こどもの心には私心がない。とらわれがない。いいものはいいし、わるいものはわるい。だから思わぬものごとの本質をつくことがしばしばある。こどもはこうして成長する。「なぜ」と問うて、それを教えられて、その教えを素直に自分で考えて、さらに「なぜ」と問いかえして、そして日一日と成長してゆくのである。

大人もまた同じである。日に新たであるためには、いつも「なぜ」と問わねばならぬ。そしてその答を、自分でも考え、また他にも教えを求める。素直で私心なく、熱心で一生懸命ならば、「なぜ」と問うタネは随所にある。それを見失って、きょうはきのうの如く、あすもきょうの如く、十年一日の如き形式に堕したとき、その人の進歩はとまる。社会の進歩もとまる。

繁栄は「なぜ」と問うところから生まれてくるのである。

※PHP研究所の機関誌の裏表紙に連載した短文の中から121篇をまとめた「道をひらく」（PHP研究所）より（原文通り）

常に「なぜ」と問い続けることのできる大人になるためには、やはり素直な子どもの時期に、「なぜ」といった問いの生まれる場や経験、主体的に解決する学習の場や経験を、学校が効果的に設定していくことが大切であると考えます。一学期のまとめの月を迎えるにあたりまして、子どもたちのさらなる学習の充実に努めてまいりたいと考えています。